

CLIPPEDIMAGE= JP361271210A

PAT-NO: JP361271210A

DOCUMENT-IDENTIFIER: JP 61271210 A

TITLE: COSMETIC

PUBN-DATE: December 1, 1986

INVENTOR-INFORMATION:

NAME

FUKUSHIMA, MAKOTO

MATSUDA, KAZUO

HOSHIZAKI, SADAO

ASSIGNEE-INFORMATION:

NAME

POLA CHEM IND INC

COUNTRY

N/A

APPL-NO: JP60114455

APPL-DATE: May 28, 1985

INT-CL (IPC): A61K007/00;A61K007/06 ;A61K035/78

US-CL-CURRENT: 604/890.1

ABSTRACT:

PURPOSE: A cosmetic, containing an extract component prepared by extracting the root of Salvia miltiorrhiza Bunge, etc. as an active constituent, having improved skin beautifying effect and beautifying and whitening effect and humectant effect and capable of producing effect, e.g. tension, gloss, smoothness, etc. of the skin by using in cream, toilet water, etc.

CONSTITUTION: A cosmetic containing an extract component prepared by extracting the dried root of Salvia miltiorrhiza Bunge or Salvia przewalskii Maxim. var. mandarinorum Stib. as an active constituent. The Salvia

miltiorrhiza Bunge or  
Salvia przewalskii Maxim. var. mandarinorum Stib. is a  
perennial plant  
belonging to the genus Labiatae. The extract thereof is  
obtained by cutting  
the dried root of the Salvia miltiorrhiza Bunge or Salvia  
przewalskii Maxim.  
var. mandarinorum Stib. to fragments having  $\leq 2$ cm  
thickness or powder with  
a cutter, and extracting the resultant fragments or powder  
with an organic  
solvent, e.g. ethyl acetate or acetone, and/or water. In  
using as a cosmetic,  
a water-soluble high polymer, e.g. polypeptide or casein, is  
preferably further  
incorporated with the above-mentioned active constituent,  
because the  
percutaneous absorption is increased. The amount of the  
active constituent to  
be incorporated is preferably 0.1~5wt%.

COPYRIGHT: (C)1986,JPO&Japio

## ⑫ 公開特許公報(A)

昭61-271210

⑪ Int. Cl.<sup>4</sup>A 61 K 7/00  
7/06  
35/78

識別記号

ADS

庁内整理番号

7306-4C  
7417-4C  
7138-4C

⑬ 公開 昭和61年(1986)12月1日

審査請求 未請求 発明の数 1 (全5頁)

⑭ 発明の名称 化粧品

⑮ 特 願 昭60-114455

⑯ 出 願 昭60(1985)5月28日

⑰ 発 明 者 福 島 信 横浜市神奈川区高島台27番地1 ポーラ化成工業株式会社  
横浜研究所内

⑱ 発 明 者 松 田 和 夫 横浜市神奈川区高島台27番地1 ポーラ化成工業株式会社  
横浜研究所内

⑲ 発 明 者 星 崎 貞 夫 横浜市神奈川区高島台27番地1 ポーラ化成工業株式会社  
横浜研究所内

⑳ 出 願 人 ポーラ化成工業株式会 静岡市弥生町648番地  
社

## 明 細 書

## 1. 発 明 の 名 称

化粧品

## 2. 特 許 請 求 の 範 囲

1) 丹参の根より抽出して得られる抽出成分を有効成分として含有することを特徴とする化粧品。

2) 該化粧品中に水溶性高分子物質を含有する特許請求の範囲第1項記載の化粧品。

## 3. 発 明 の 詳 細 な 説 明

## 「発明の目的」

本発明は丹参の根より抽出して得られる抽出成分を有効成分として含有することを特徴とする、美肌効果、美白効果、保湿効果などに優れた化粧品に関するものである。

古来、基礎化粧品は整肌、美肌、美白などの目的で多くのものが提案されており、それなりの効果が得られるものであった。

本発明者は創傷治癒作用や細胞賦活作用の観点より、天然物有効成分について、鋭意研究探索の

結果丹参の根より抽出して得られる抽出物に肌にとって好ましい作用すなわち美肌、美白、保湿などの効果や養毛効果を発見し本発明を完成するに至った。

すなわち本発明は丹参の根より抽出して得られる抽出成分を有効成分として含有することを特徴とする化粧品に関するものである。

## 「発明の構成」

本発明に適用される丹参(タンジン)は、シソ科に属する多年草植物 *Salvia miltiorrhiza* Bunge または、*Salvia przewalskii* Maxim var. *mandarinorum* Stibであり、本発明は上記植物のおもに乾燥根より有機溶媒及び/又は水で抽出された抽出物(以下タンジンエキスと略す)を用いるものである。尚、前述の丹参は、他の用途においてはすでに使用されているものである。すなわち、生薬として、血管拡張、強心作用の目的で服用されている。

上記タンジンエキスの製造方法は、公知の方法が利用でき、例えば、まずタンジンの乾燥根を裁

断機により厚さ2cm以下の小片とするか又は粗粉碎して粉末状とし、酢酸エチル、アセトン、ブタノール、プロパノール、エタノール、メタノール等の有機溶媒及び水をそれぞれ単独あるいは2種以上混合して得られる抽出溶媒に浸漬して抽出後、得られた抽出液より抽出溶媒を留去し、有効成分を分離採取することができる。このようにして得られた抽出エキスは一般的に淡黄褐色～赤褐色の半固体又は粉末であり、臭いはほとんどないものである。又、上記の抽出エキスは必要に応じて、カラムクロマトグラフィー、液滴向流分配クロマトグラフィー、活性炭又は活性白土処理などの手法によりさらに精製して用いることができる。

又、前記タンジンエキスに加えて水溶性高分子物質を含有せしめた化粧品はさらに好ましい整肌作用を有するものである。これは恐らく、皮膚上に於て、水溶性高分子物質がビヒクルとなり、有効成分であるオウギエキスを効果的に角質層へ移行せしめ、経皮吸収を増大させることによるものと思われる。このような水溶性高分子物質として

は分子量2000以上のものであり、例えば、ポリペプチド、水溶性コラーゲン、ムコ多糖類、ヒアルロン酸、ガム質、カゼイン、デキストリン、ゼラチン、ペクチン等が挙げられ、これらのうち1種又は2種以上が使用される。

次に、本発明により提供される化粧品としては、クリーム、乳液、化粧水、リップクリーム、リップカラー、アンダーメイクアップ、整毛料など多くのものが挙げられ、前記タンジンエキスの配合量は化粧料の性質に応じて任意に選択されるが、通常は全重量に対し凡そ0.01～10重量%好ましくは0.1～5重量%である。又、上記水溶性高分子物質の配合量は全重量に対し凡そ0.001～1重量%である。

次に、配合の方法はタンジンエキスをそのまま又は水、アルコール、多価アルコール等に溶解して、従来の薬効成分等を配合するのと同様の方法により化粧品に配合することができる。

又、本発明に係わる化粧品には前述のタンジンエキス及び水溶性高分子物質の他通常化粧品に用

いられる添加剤たとえば、油脂類、界面活性剤、酸化防止剤、香料、色素、アルコール類、多価アルコール、防腐剤、サンスクリーン剤、水、保湿剤等を配合することができる。

#### 「製造例」

##### 製造例-1

タンジンの乾燥根500gを裁断機により厚さ2cm以下の小片とし、これにメタノール2ℓを加え室温にて1時間混合攪拌抽出し、ろ過する。この操作を2回繰返し、ろ液を集めて減圧濃縮乾固し、淡赤褐色粉末状のタンジンエキス20gを得た。(収率4%)

##### 製造例-2

タンジンの乾燥根200gを裁断機により裁断した後、粉碎機により粉碎し、粉末とする。これに50%含水メタノール1ℓを加え室温にて1時間混合攪拌抽出し、ろ過する。この操作を2回繰返し、ろ液を集めて約0.3ℓとなるまで減圧濃縮する。これに水0.3ℓを加えて攪拌し均一な分散液としたものに毎回n-ブタノール300mlを用

いて3回抽出操作を行ない、抽出液を集めて減圧濃縮乾固して淡褐色半固体のタンジンエキス56gを得た。(収率28%)

##### 製造例-3

タンジンの根500gを厚さ約5mmにスライスし薄片状とし、これに約60℃の湯2ℓを加えて30分間混合攪拌抽出し、ろ過する。この操作を2回繰返し、ろ液を集めて凍結乾燥し、淡赤褐色半固体状のタンジンエキス205gを得た。(収率41%)

#### 「発明の効果」

次に、本発明において使用されるタンジンエキスについて、その整肌効果を確認する為、ラットを用いて創傷治癒テストを行ない結果を表-2に示す。試験方法は下記の通りである。

#### 〈試料〉

水中油型クリームとして、タンジンエキスを含まないもの(比較例-1)、1.0%含有するもの(実施例-1)、3.0%含有するもの(実施例-2)、以上3検体を下表-1の通り調製する。

## 創傷治癒テスト

実験動物として、5週令のSD系ラットを購入後7日間予備飼育したものの40匹をI～IV群まで各10匹づつに分けて用いた。まず各群のラット背部を電気バリカンを用いて除毛し、水-エタノール3:7消毒液を脱脂綿に含浸せしめたもので清浄する。その後円形のたがね(φ11mm)を用いて正中線に沿って左右対称の皮膚欠損傷を4ヶ所作成する。次に、I群を無処理群とし、II群は毎日1回観察終了後に比較例-1のクリームを塗布し、III及びIV群は同様にそれぞれ実施例-1のクリーム、実施例-2のクリームを塗布した。検体の塗布は全て1日1回各損傷部位当り0.1gとした。又、観察は1日1回創傷面積の測定と肉眼観察について行なった。尚、各群の創傷面積(mm<sup>2</sup>)は10匹の平均値(小数第2位を四捨五入)であり、治癒率は下式により求めた。

$$\text{治癒率} = \frac{(\text{0日目の創傷面積} - \text{11日目の創傷面積})}{\text{0日目の創傷面積}} \times 100(\%)$$

表-1

検体 原料名	比較例-1 のクリーム	実施例-1 のクリーム	実施例-2 のクリーム
流動パラフィン	10.0	10.0	10.0
ステアリン酸	7.0	7.0	7.0
ワセリン	5.0	5.0	5.0
液状ラノリン	2.0	2.0	2.0
ポリオキシエチレン セチルアルコール エーテル(20EO)	3.0	3.0	3.0
グリセリンモノ ステアレート	2.0	2.0	2.0
製造例-3の タンジンエキス	—	1.0	3.0
プロピレングリコール	3.0	3.0	3.0
精製水	67.5	66.5	64.5
エチルパラベン	0.5	0.5	0.5

表-2

検体	創傷面積(mm <sup>2</sup> )				治癒率 (%)
	0日	3日	7日	11日	
I群 無処理	97.0 ± 2.0	94.1 ± 3.4	46.6 ± 5.6	20.8 ± 2.8	78.6
II群 比較例-1	101.2 ± 3.2	88.3 ± 4.0	47.9 ± 3.1	20.0 ± 2.8	80.2
III群 実施例-1	99.4 ± 3.5	90.6 ± 3.0	41.9 ± 3.2	16.5 ± 2.7	83.4
IV群 実施例-2	99.8 ± 2.1	90.1 ± 2.7	40.2 ± 2.5	13.3 ± 1.9	86.7

(以下余白)

以上の如く、タンジンエキスを含有せしめた化粧品は優れた創傷治癒効果を有しており傷の回復が早く、又、完治後(20日目)の皮膚の状態も無処理群や比較例-1群に比べて美しいものであった。

次に、本発明に適用される化粧品について20日間連用による臨床テスト後官能評価を行ない結果を表-3に示した。このとき本発明品として後期実施例-3のエモリエントクリームを用い、対照品としては実施例-3のエモリエントクリームよりタンジンエキスを除いたものを用いた。

試験方法は下記の通りである。

## 臨床テスト:

男女混合計20名をパネラーとし、左上腕内側部に対照品を、右上腕内側部に本発明品をそれぞれ1日2回通常の使用状態と同様に塗布し、これを20日間続けた後、官能評価項目として肌のはり、つや、なめらかさ、みずみずしさの4項目について下記のような基準において評価し、20名の平均値を評価点とした。

肌の							
はり	ない	←	→	ある			
つや	ない	←	→	ある			
なめらかさ	ない	←	→	ある			
みずみずしさ	ない	←	→	ある			
評点	0	1	2	3	4	5	6
	非	割	少	言	少	割	非
	常	合	し	え	し	合	常
	に			ち			に
				なら			
				い			
				と			
				も			

表 - 3

	肌の はり	つや	なめら かさ	みずみ ずしさ
実施例-3の クリーム	5.4	4.6	4.9	4.5
実施例-3の 対照品	3.5	3.8	3.2	4.1

数値は官能評価点

以上の如く、本発明に適用される化粧品は皮膚に運用することにより、肌のはり、つや、なめらかさ、みずみずしさなどに好ましい効果を発揮するものである。

又、実施例-5の養毛料については、例数が少ないながらも臨床試験において養毛効果が確認された。

## 「実施例」

次に、本発明の実施例を示す。実施例1～2については、前記表-1に示した通りである。以下、配合量は重量部である。

## 実施例-3 エモリエントクリーム

セタノール	2.0
ゲイロウ	5.0
流動パラフィン	7.0
オリーブ油	24.0
ステアリン酸	7.0
モノステアリン酸ソルビタン	4.0
ポリオキシエチレンモノステアリン酸ソルビタン(20E0)	4.0

製造例-1のタンジンエキス 0.5

プロピレングリコール	10.0
エチルパラベン	0.1
精製水	36.0

C 香料 適量

上記処方物Aを混合加熱して80℃とする。これに上記処方物Bを同様に混合加熱して80℃としたものを加え、ホモミキサーで均一に乳化し、上記Cを加えて冷却し、製品とする。

## 実施例-4 乳液

ミツロウ	1.0
セタノール	1.0
ラノリン	3.0
ステアリン酸	2.0
流動パラフィン	7.0
オリーブ油	3.0
ポリオキシエチレンモノオレイン酸エステル (10E.0.)	2.0

製造例-2のタンジンエキス 0.2  
香料 適量

製造例-3のタンジンエキス	0.4
ヒアルロン酸	0.7
グリセリン	4.0
プロピレングリコール	4.0
トリエタノールアミン	1.0
メチルパラベン	0.3
精製水	70.0

上記処方物Bを混合加熱して70℃とする。これに上記処方物Aを同様に混合加熱して70℃としたものを加え、ホモミキサーで均一に乳化し、冷却して製品とする。

## 実施例-5 養毛料

95%エタノール	75.0
1-メントール	0.1
ヒノキチオール	0.1
トウガラシチンキ	0.1

A	成分	量	B	成分	量
A	エチルアジバート	2.0	B	クエン酸	0.1
	ツバキ油	1.0		クエン酸ナトリウム	0.2
	ポリオキシエチレン硬化			メチルパラベン	0.1
	ヒマシ油 (50E.O.)	1.0		アラントイン	0.1
	製造例-2のタンジンエキス	0.7		精製水	84.5
	香料	0.2			
B	クエン酸	0.1	上記処方物A及びBを加温溶解し、BにAを加え可溶化して製品とする。		
	クエン酸ナトリウム	0.1			
	精製水	19.6			

上記処方物Aを攪拌溶解し、これに上記処方物Bを添加、混合して透明液状の養毛料を得た。

特許出願人 ポーラ化成工業株式会社

#### 実施例-6 化粧水

A	エタノール	12.0
	グリセリン	2.0
	1-メントール	0.05
	ポリオキシエチレン	0.5
	硬化ヒマシ油 (50E.O.)	
	製造例-3のタンジンエキス	0.2